

動物愛護推進員から提出のあった意見

- ・独居老人が野良猫の手術をやりたい意思があっても協力者がいない。
- ・独居老人の多頭飼育者が、不妊手術を実施する意思が有る場合は、保健所が捕獲などに協力してもいいのでは。
- ・コロナの関係でマスクや消毒薬が不足している。
- ・台風の時、ペットとの同行避難を避難所に断られたケースがかなりあったようだ。
- ・えさをあげるだけで、避妊・去勢手術をしてくれない方への対応が困難。
- ・精神疾患の方が、独居で猫を多頭飼育している。半分は地域猫としたが、残りを家に囲ってしまい、それ以降の状況が不明になっている事例がある。
- ・コミュニティ作りの問題もあり、人間の福祉部署の方々との連携が必要では。
- ・動物虐待の防止のために、防犯カメラの設置を要望したい。
- ・動物愛護管理推進協議会では、家庭飼育動物や地域猫の問題だけではなく、動物取扱業の適正化や産業動物の適正な取扱についても忘れずに検討してもらいたい。
- ・コロナの関係で、しつけ方教室や譲渡会が中止になっている。
- ・災害時の避難に関して、同行避難の心得のチラシを作ってもらえないか。
- ・県HP「犬のしつけを始める前に」の内容は現在の動物行動学の現状とは異なっている。削除して環境省や日本獣医動物行動研究会HPへのリンクを希望する。
- ・高齢の方から、自宅周辺の猫にエサを与えてなついた野良を避妊去勢に連れて行ってくださいと依頼がある。
- ・マイクロチップの挿入意義やその必要性など、周知が必要。
- ・県愛護センターへの高速道路料金が負担。
- ・隣の人とトラブルになるのが怖くて、犬に対する苦情を言い出せない事例がある。
- ・活動報告書等、郵送ではなくメールで配信してほしい。郵送は税金の無駄である。
- ・私有地での猫の捕獲作業の難しさ（許可のもらい方、話の進め方）
- ・避妊・去勢手術費用の壁がある（やってあげたいが、費用は出せない）。
- ・猫の預かりボランティアをしてくださる方がほしい（譲渡会が延期になったため）。
- ・ボランティアのことを「困ったときに犬猫を預かってくれるところ」だと思っている人がいる。
- ・高齢者にはなかなか理解してもらえないことが多い。交通費も負担。
- ・虐待報告を交番にしても調書は取るが、1回の報告ではパトロールしてくれない。アニマルポリスのよ

うなものではないか。

- スマホしながらの犬の散歩を見かける。スマホに気を取られて犬の行動に対しての注意がおろそかになっている。広報誌でながらスマホ散歩に対する注意を呼びかけてほしい。
- 地域ぐるみでの猫との共存を、自治体等に協力要請することの難しさを感じる。
- 福祉ボランティアと連携できる仕組みを作り、問題が小さいうちに現場介入した方が、問題が大きくならなくてよいのではないか。
- 飼い主のいない猫対策として地域猫活動を推進している以上、県主催の啓発セミナーや県報で、積極的に広報してもらいたい。
- 猫の保護、譲渡に関する依頼が多く、ボランティアの力は限界があるので、行政の積極的な対応をお願いしたい。
- 各市に窓口やシェルターを設置してほしい。
- 台風やコロナなどで、人間の生活が不安定になると、余裕がなくなり、今後ボランティアの活動環境も変化することが危惧される。
- 市役所の理解（市の協力）が得られない。

市役所の駐車場内の野良猫に対し、ボランティアが市の助成金を使った手術を提案するも、自治会の承認が下りないとできないと言われた。仔猫も生まれており、市の敷地内にいるのであれば、市がボランティアに協力を求めて繁殖制限していくべきではないか。